JSIR NEWS LETTER
国際リハビリテーション研究会
vol.22 2024年1月28日発行

巻頭言

「国際」協力考

河村祐貴子　（国際リハビリテーション研究会事務局、(株)ぽっけ訪問看護ステーション不動平）

〔巻頭言〕
「国際」協力考
河村祐貴子

〔特集：国際リハビリテーション研究会第7回学術大会〕
山口佳小里
齋藤崇志
道願正歩
松本侑己
鈴木知世

〔コラム〕
[世界のめがね]
『配車アプリが生み出す聴覚障害者の雇用』
山本啓太

〔お知らせ〕

「あなたは本当に、人の生活に興味・関心があるねぇ」。まだまだ新米作業療法士だった頃、尊敬する先輩にそうフィードバックして頂いてから、時々思い出す言葉です。違えば違うほど魅力を感じ、その生活様式や行動の背景を理解したくなります。文化が違えばその違いもまた深くなり、だから私にとって異文化の海外はとても魅力的な存在でした。海外に「違い」を感じていたので、平成23年度、フィリピンにJICA海外協力隊員として派遣されるまで、「国際」協力はどこか遠くの特別な存在でした。しかし、2年間、現地の方々と共に生活・活動する経験を通して、それは何も特別な事ではなく、国家や国籍の違いで「国際」と名がつくものの、ただその時周りにいる人々とつながり、理解し合い、助け合う、まさに日常の営みそのもので、何も特別な事ではないのでは、と感じるようになりました。

帰国後も、経験の社会還元や国際協力について考え続けたいと思っていたタイミングで「第1回国際リハ研究会学術大会」に参加したご縁で、研究会に所属させて頂きました。

リアルな「国際」体験談から世界最新の動向まで網羅する、当研究会のバラエティに富んだ活動を通して、人々と情報がつながることで理解や思考が促進され、あるいは人と人がつながることでアイディアや行動に発展していく、そんな事を期待しつつ、今年の研究会の展開も楽しみにしております。

特集：国際リハビリテーション研究会第7回学術大会『知る・気づく・考える　“Rehabilitation 2030”-中・低所得国におけるリハビリテーション普及への貢献-』を開催いたしました

山口佳小里 大会長（国立保健医療科学院）

【山口佳小里 大会長】

2023年11月19日、東京は広尾の聖心グローバルプラザにて開催いたしました。“Rehabilitation 2030”というのは、WHOが2017年から実施しているイニシアティブで、高齢化等による世界的なリハビリテーションニーズの高まりを背景とした、リハビリテーション普及のための取り組みです。日本からどのような貢献ができるか皆様と一緒に考える機会にできればと考え、テーマを決めました。

【開催会場様子：聖心グローバルプラザ】

シンポジウムでは、WHOリハビリテーション部門のMills氏より、“Rehabilitation 2030”の概要ならびに日本を管轄地域に含むWHO Western Pacific Regional Office (WPRO)の取り組み等について、国立障害者リハビリテーションセンター総長の芳賀先生、国立保健医療科学院院長の曽根先生から、各組織が取り組んでいる国際協力についてご紹介いただきました。また、国際協力関連のNGOや医療法人、企業で、医療・保健・障害（福祉）・高齢等の多岐にわたる領域で実践経験の豊富な方々を講師にお招きし、活動についてご紹介いただきました。その他にも理学療法士等の協会による国際事業のご紹介や、一般演題での現地活動のご発表など、多彩なプログラムをお届けすることができたのではないかと思います。詳細は、年度末に発行される本研究会学術誌の国際リハビリテーション学を是非ご覧ください。

約60人の方にご参加いただき、盛況のうちに会を終了いたしました。小規模ならでは密度の高く、参加者の皆様には自由な交流や活発な議論を交わしていただきました。大会長として、また研究会運営に携わる者として「双方向性」「コ・クリエーション（共創）」を少しでも実現できていれば嬉しく思います。

さて、次回の学会は宮城県東松島市で開催されます。どのような場で、どのような交流が生まれるか・・楽しみにお待ちください！

PT協会、OT協会、ST協会の国際事業の紹介
-国際活動の入り口として-

齋藤崇志（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

国際リハビリテーション研究会第7 回学術大会で「PT協会、OT協会、ST協会の国際事業の紹介-国際活動の入り口として-」と題したセッションが行われました。このセッションは、国際関係の活動を始めたいと考えているリハビリテーションに関わるセラピストが、具体的な活動を始める契機となるような情報を提供することを目的に企画されました。具体的には、日本理学療法士協会(PT協会)・日本作業療法士協会(OT協会)・日本言語聴覚士協会(ST協会)が、それぞれの会員に向けて展開している国際関係事業について、各協会の担当者からご紹介いただきました。

PT協会からは伊藤智典先生にご登壇いただき、PT協会がアジア太平洋地域の国々のPT協会と展開するパートナーシップに関する概要を解説していただきました。また、会員の語学力向上を目的とした語学プログラムや海外の理学療法（士）に関する情報交換を目的とするGlobal caféの概要についてご紹介いただきました。

高橋香代子先生からは、OT協会が展開する国際学会参加や国際交流を推進するための海外研修助成制度や、台湾をはじめとするアジアの国と地域のOT協会とのパートナーシップについて解説がなされました。また、海外のOTのインターン（実習生）を日本国内の病院等で受け入れる際に、OT協会が行っているサポート等について、高橋先生とオーディエンスの間で活発な質疑応答が交わされました。

ST協会の国際事業については、立石雅子先生にご紹介いただきました。ST協会が展開する国際関連事業はPT協会やOT協会と比べ歴史が浅く発展途上にあること、そして、会員向けの情報提供や海外のSTとの交流の機会を促すための事業等を今後展開することを模索していることをご紹介いただきました。

本セッションの座長として、ご講演いただいた3名の先生、ならびに、セッションに積極的に参加してくださったオーディエンスの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

【齋藤崇志 氏】

学術大会の実行委員と演題発表を経験して

道願正歩（東京湾岸リハビリテーション病院）

第7回JSIR学術大会の実行委員と演題発表をさせていただきました道願と申します。私はJICA海外協力隊2018年度2次隊でパナマにて作業療法士として活動しておりました。帰国後、回復期リハ病院で勤務し、国際協力の分野から長い期間離れておりました。心の片隅に「国際協力に関わっていたい」という気持ちはありましたが、臨床に精一杯でなかなか動くことができておりませんでした。そんな中、ネパール人の患者様の担当をつとめる機会があり、支援を行う中で「やはり国際協力に関わっていたい」という気持ちが強くなりました。結果、ご縁があり実行委員として学術大会の運営に携わらせていただきました。実行委員を経験し感じたことは、海外やNGOなどの国際協力のフィールドにいなくても、JSIRに所属しつながりを持つことで、国際協力に携わることが出来るという可能性です。当日の学会にて、最前線で国際協力に取り組んでいる演者の方々の報告をお聞きする一方で、支援アイデアの共有や支援者への仲介など国内でも可能な間接的な支援方法も多様にあると感じました。また、他の演者の方からかけて下さった「ネパールでは障害者はまだまだ差別の対象」という言葉にも考えさせられました。ネパールは2009年に障害者権利条約に批准したという背景がありますが、やはり途上国での差別問題などはまだまだ根強く残っているという現状です。日本在留外国人も年々増えており、日本にいながら国際協力をする機会は今後求められるのではないかと思います。よって、JSIRへの所属は多様な方法で国際協力を行う上で意義のあるものであると感じております。また、今後国際協力に本格的に携わりたいと思うタイミングまで、コツコツと情報収集をするというスタンスでJSIRに所属しておくのも良いかもしれません。会員の皆様の助けになるように、今後ともサポートさせていただきたいと思います。

【発表：道願正歩 氏】

国際リハビリテーション研究会第7回学術大会に参加して

松本侑己（国立病院機 別府医療センター）

2023年11月19日、東京の聖心女子大学4号館の聖心グローバルプラザにて、国際リハビリテーション研究会主催の第７回学術大会が開催されました。今回、この大会に参加し、演題発表を行いましたので、その発表を通して感じたことを報告します。

大分県理学療法士協会では、国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業において、ペルーにおける障害児スポーツ指導力強化及び普及促進プロジェクトを実施しています。プロジェクトの一環として、2023年2月6日～9日の4日間に、私を含め4名の理学療法士が、ペルーリマ市にある日本・ペルー友好国立障害者リハビリテーションセンターにて現地調査を実施しました。初めての開発途上国への渡航は、感動的でした。文化や生活様式の異なる環境で、他国の医師や理学療法士、患者と交流することで新しい視点を得られました。同時に、貧困や生活環境といった課題を目の当たりにし、我々のプロジェクトをどう活かして貢献できるのか深く考えさせられました。今回の渡航を通じて、人間関係や異文化理解の向上だけでなく、自己成長と社会貢献について気づきをもたらしてくれました。今後の課題として、競技種目の確立、スポーツ指導技術の向上があげられました。

今回、国際リハビリテーション研究会での学会発表は、初挑戦でしたが、非常に充実した経験となりました。発表後に学術大会参加者から多くのフィードバックを頂いたことで、プロジェクトを多くの視点から改めて考えることができました。また、シンポジウムや他の発表も豊富で、多岐にわたるテーマに触れることができました。国際的なリハビリテーションのトレンドや課題について知り、気づき、考えることができてよかったです。また、第８回学術大会へも、今後のプロジェクトの成果をまとめ参加したいと思います。

学部生として挑戦した演題発表
-タイ・高齢者ケア分野の国際協力プロジェクトを事例に-

鈴木知世（国際教養大学 国際教養学部 4年）

【発表：鈴木知世 氏】

この度、第７回学術大会の一般演題枠において、「“タイ国自治体ネットワークによるコミュニティベース統合型高齢者ケア事業” 認知症カフェ普及：事例報告発表」というタイトルで、タイ各地で高齢者ケア活動の普及を目指すJICA草の根技術協力事業の事例報告をさせて頂きました。心から感謝申し上げます。

当発表では、日本各地で広く実践されている「認知症カフェ」の取り組みがタイの自治体に伝わり、同事業のネットワークを通じた自治体間でのノウハウ共有により、タイの自治体３箇所へ普及した過程や要因を整理しました。私は国内調整員として同事業の運営に携わっており、従来の開発協力事業とは異なる独自の手法（技術移転ではなく「学び合い」による相互発展、中央政府ではなく各現場がオーナーシップを持つ活動等）により、各自治体が主体となる技術普及の動きが、事業終了後にも持続する体制の構築を目指しています。また、このような学術大会の場で事業が紹介される事で、自治体職員や医療・福祉専門職など、タイの各現場で高齢者ケア体制の発展に取り組む関係者のエンパワメントに繋がる事も期待しています。

今回の学術大会は、私にとって演題発表に挑戦する初の機会でした。不慣れな部分もあったかと存じますが、学部生にも発表の門戸を広げて頂き、貴重な経験となりました。また、当学術大会の大会長である国立保健医療科学院主任研究官の山口佳小里氏、東京都市大学都市生活学部教授の沖浦文彦氏に、発表内容に対するご助言も頂きました。加えて、その他のセッションの発表を拝聴する中で多くの刺激を受け、中低所得国へのリハビリテーション普及に係る国際協力について、公的機関・民間企業・NGOなど組織の視点を横断しながら日本の立ち位置を考える契機となりました。この経験を糧に、より専門性の高い今後の学びや研究、同事業の運営をはじめとする実践活動へ、一層精進して参ります。

特集写真：国際リハビリテーション第7回学術大会

【メインシンポジウム１】
『Rehabilitation2030と関連する国の機関の取り組み』

【メインシンポジウム２】
『社会的課題に対応した国際協力実践』

「コラム」『世界のめがね』

～ 配車アプリが生み出す聴覚障害者の雇用 ～

山本啓太
（AAR Japan [難民を助ける会]）

世界中で活躍を展開している
会員のめがねを通した
世界の姿を各号お届けします。
今回は、**カンボジア**からです。

カンボジアで生活していると週に数回はトゥクトゥクを利用するのですが、料金が安く、ぼったくりが防げ、確実に目的地に着くことから毎回配車アプリを使います。ある日、いつもと変わらず到着した運転手に挨拶をしたのですが、全く反応がなく「不愛想な人だな」と思いながら後部座席に乗り込みました。すると、目の前に進行方向を指示するためのスイッチが設置されていることに気づきました。クメール語は全く読めないので翻訳アプリで文章を読み取ると「こんにちは。私は聴覚障害者です。心配しないでください。私があなたを目的地まで安全に連れていきます。」と書かれていました。後ほど調べてみると、東南アジアでシェアNo.1の配車アプリGrabは聴覚障害者の雇用促進を推進しているようです。テクノロジーの発展と企業のビジョンが一致すれば、たった一つの民間企業が障害者の生活を変えられることを強く認識した瞬間でした。障害者支援に従事する一人として、日本でもこのような取り組みが広まることを望みます。

[お知らせ]

【国際リハビリテーション学第6巻郵送予定】

2024年2月に会員の皆様全員に「国際リハビリテーション学第6巻」を冊子体で郵送いたします。未着の方は事務局までご連絡ください。

【年会費お支払いのお願い】

2023年度の年会費のお支払いがお済みでない方は、下記の口座まで年会費のご入金をお願いいたします。
銀行名：ゆうちょ銀行 口座名義：国際リハビリテーション研究会 記号：10540番号：83410731
他金融機関から振り込む場合 店名：０五八（ゼロゴハチ） 店番：058 預金種目：普通預金口座番号：8341073
※振込者名と会員名を同じにしてください。

編集後記

- 今回の学術大会は国内外における国際協力の実践を知る機会として有意義だと感じています。国際協力に興味があるけど、どのように動けばよいかわからない方にとって良いきっかけになり多くの会員様が活動的になればと思います。（長田真弥）
- 医療福祉に関する世界の課題と日本の強みについて知ることのできた学術大会であったと感じています。また一般演題等で参考となる実践例もお聞きできました。本号を通じて大会の様子をお伝えできましたら幸いです。（古川雅一）

事務局　編集担当
大西 海斗（コーエイリサーチ＆コンサルティング）
長田 真弥（姉ヶ崎ケアセンター）
髙橋 恵里（福島県立医科大学保健科学部）
髙橋 佳太郎（JICA海外協力隊、チリ派遣）
古川 雅一　（仙台医健・スポーツ専門学校）
三田村 徳　（東北医科薬科大学病院）

【研究会HP】 https://int-rehabil.jp/
【研究会FaceBook】https://www.facebook.com/pages/category/Nonprofit-Organization/国際リハビリテーション研究会-1951070205159667/
【お問い合わせ】国際リハビリテーション研究会事務局 jsir.office@int-rehabil.jp
【JSIR HP】